



ふれあいひろば

〔患者とともにある全人的医療〕



新潟市民病院は
「赤ちゃんにやさしい病院 (BFH; Baby Friendly Hospital)」
に認定されました

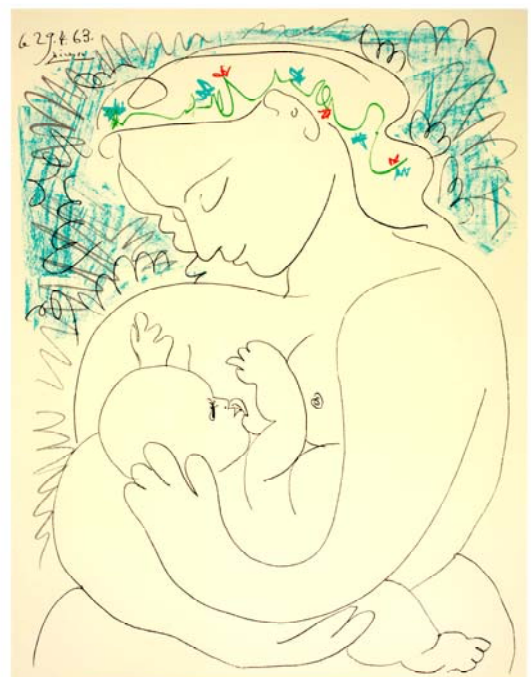
総合周産期母子医療センター長
永山 善久

この度、新潟市民病院は、WHO（世界保健機関；本部ジュネーブ）／UNICEF（国連児童基金；本部ニューヨーク）から「赤ちゃんにやさしい病院（BFH）」として認定されました。BFHとは聞き慣れない言葉かもしれませんが、「母乳育児の保護、促進そして支援」のために1989年にWHOとUNICEFが共同で出した声明「母乳育児成功のための10カ条」を長期に渡り遵守、実践している施設に与えられる認定証です。「母乳育児成功のための10カ条」には「世界のすべてのお母さんを助けて、赤ちゃんを母乳で育てられるようにすることによって、すべての赤ちゃんに等しく最善の人生のスタートが訪れるように」という願いが込められています。そして1991年から「これを完全に実施している施設をBFHとして認定する」ということがされてきました。世界で初めて認定された施設は、欧米の施設ではなく、我が国の国立岡山病院（現在の国立病院機構岡山医療センター）でした。世界母乳週間（8月1日～7日）に合わせて開催される母乳育児シンポジウムで、今年はユニセフ東京事務所長の平林氏から片柳院長に認定証が授与されました。認定証には、ピカソがUNICEFに寄付した「母子像」画が使われており、見る者に母の深い慈しみと安らぎを感じさせてくれます。レプリカが院内の玄関や産科病棟に掲示されていますので、どうぞご覧になってください。

当院は1987年に新生児医療センター30床を開設し、新潟市のみならず、県内の施設から新生児を受け入れ、周産期医療の中心を担ってきました。2007年の新病院移転後は、母体胎児集中治療室も整備し総合周産期母子医療センターにも認定されて

います。ハイリスクの妊娠・分娩を多数取り扱う一方で、正常産のお母さん・赤ちゃんにもきめ細かな支援を行い、母児中心、家族中心のケアを実践しています。このことは当院の理念である「患者とともにある全人的医療」、「患者さんにやさしいぬくもりのある医療」まさにそのものであります。

現在、国内には69のBFH施設があり、新潟市には当院と済生会新潟第二病院の2施設があります。今後はBFH 2施設が中心となり地域の病院、分娩施設にこの「赤ちゃんにやさしい病院」運動を広げ、新潟市全体が「お母さんと赤ちゃんにやさしい地域」になるよう願っています。



病児保育室「リトルスワン」平成26年1月15日 開所します。

管理課 竹内 勝美

病児保育室「リトルスワン」が1月15日（水）に開所いたします。場所は、市民病院南棟の1階です。

病児保育室は、お子さんの体調が悪く、保護者の方が仕事でそばにいられない時、保育園に預けられない時、保護者に代わって保育看護を行う医療機関併設型の保育室です。

病児保育室では、保育士や看護師といった専門職のスタッフが、病気で心細い思いをしているお子さんが快適に一日を過ごせるようお世話いたします。

病児保育室の利用手続きの流れは、

- ①事前登録
- ②利用希望日の前日までに電話予約
- ③利用当日に申込書を提出 となります。

また、施設の利用にあたっては、医師連絡票が必要となります。医師連絡票は、病児保育室が保育看護を行うために必要となる診療情報を、かかりつけ医から提供してもらうためのものです。あらかじめ、かかりつけ医に医師連絡票の記載をお願いし、利用当日に申込書とあわせて、施設に提出してください。

※事前登録や利用予約の受付開始日等、手続きの詳細については、決定次第、パンフレットやホームページでお知らせする予定です。

【病児保育室概要】

- 開 所：平成26年1月15日（水）
 定 員：概ね10名
 対 象：市内に居住する、病気・病気回復期にある生後6か月から小学校3年生までのお子さん
 保育時間：月～土曜日 午前7時～午後8時まで
 お休み…祝日・年末年始（12/29～1/3）
 利用料金（自己負担）：
 ・4時間以下 1,000円
 ・4時間超 2,000円
 ・早朝保育（7：00～8：30）、延長保育（17：30～20：00） 200円／30分



上手な医者のかかり方・・・病院がFax事前予約をお願いする理由

国民皆保険により「誰でも、どこでも、いつでも」医者みに診てもらえるフリーアクセスが保障されています。でも皆が初めから大病院の専門医の医療を求めて集中するとどうなるでしょう。限りある施設・人員で診られる患者さんの数には限界があります。医者が休憩も取らず昼食もそこそこに頑張ってみても応じ切れるものではありません。また多忙を極めて余裕がなくなると適切な診たてがゆかないこともありえます。まずかかりつけ医に診てもらい、病状の適切な時機に、適切な医療機関に紹介してもらう仕組みが用意されています。かかりつけ医からFax事前予約をして頂くと、患者さんは面倒な受診手続きをとる必要がなく、待ち時間なしで診てもらうことができます。

「～知って楽しむ～市民病院ふれあいまつり2013」 ご来場ありがとうございました

市民病院ふれあいまつり実行委員会



10月12日（土）に第4回市民病院ふれあいまつりが開催されました。当日は約1,100人程のご来場をいただき大変ありがとうございました。当日一部企画で混雑があり、来場者の方に大変ご迷惑をおかけしました。多くの方からご協力いただいた当日アンケートは、次回への企画立案の参考にさせていただきます。

今年は全27企画ありました。その中から一部をご紹介します。

■ダヴィンチによるロボット支援手術が始まります！（消化器外科）

今年購入したダヴィンチについての講演会と見学をしました。実際に操作体験をした参加者の方もいらっしゃいました。



■ハンドマッサージ 他（看護部）

アロマオイルを使用してハンドマッサージを行いました。体験されるお客さんが常にいる状態で大変好評でした。看護部ではその他にミニ健診、手洗い名人になろう、こども向けナース服の試着体験を行いました。



■調剤体験コーナー「薬剤師になってみよう!!」（薬剤部）

昨年も実施した企画であり、今年も子ども達に大人気でした。スポーツ飲料水の粉末を粉薬、ジュースを水薬、チョコを錠剤に見立てて調剤体験を行いました。



■見てみよう！ドクターカー（救急科・消防局救急課）

今年は市民病院敷地内にある救急ステーション（消防局救急課）もふれあいまつりに参加しました。写真は、救急搬送デモンストラーションの様子です。



こども達に大人気の「トッキッキ」と「ちけん君」

■目で見る病気

～ボルトより速いピロリ菌～（病理検査科）
術中迅速診断の流れをまとめたパネル展示やピロリ菌・子宮頸がんの病気に関する啓発等を行いました。普段見ることのできない病理検査科の業務を知ることができました。



「知って納得！30分でわかる介護保険講座」～番外編～

医療福祉相談員 小林 朝美

皆さん、介護保険制度についてご存知ですか？「毎月保険料は支払っているけれど、一体どういう制度なんだろう」と思われている方も多いと思います。去る10月12日、新潟市民病院ふれあいまつりにて「知って納得！30分でわかる介護保険講座」と題し、市民の皆さま向けの講演を行いました。ここでは、講演内容の一部をQ&A方式にて簡単にご紹介いたします。

Q.誰でも申請できるの？

A.①65歳以上で介護が必要となった人 ②40～64歳の医療保険加入者で加齢による16の特定疾病（脳血管疾患や糖尿病合併症など）が原因で要介護状態となった人 が対象です。

Q.地域包括支援センターってどんなところ？ どこにあるの？

A.地域のお年寄の相談を広く受け付けている相談窓口です。各区の地域ごとに3～4箇所設置されており、担当地域の管轄も決まっています。介護保険以外でも高齢者に関する幅広い相談に応じられる場所でもあります。また、ここにいるケアマネジャーが要支援1.2と判定された方のケアプラン作成を担当することになっています。

Q.申請窓口はどこにあるの？

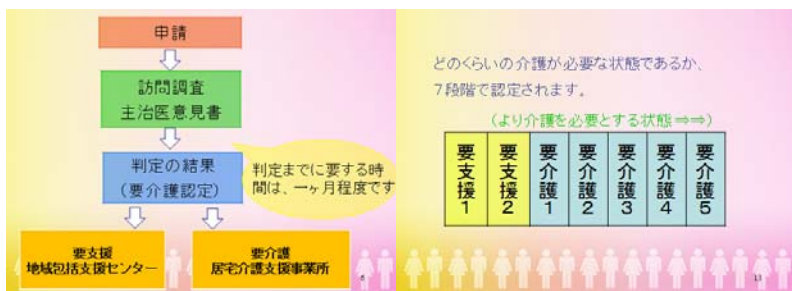
A.①区役所健康福祉課 ②地域保健福祉センター ③地域包括支援センター ④居宅介護支援事業所（ケアマネジャーの詰所）ですが、65歳未満で申請される方は①②の窓口となります。また、申請時には介護保険被保険者証をお持ち下さい。

Q.ケアマネジャーって何をする人？

A.実際に介護サービスを利用するにあってはサービスを利用するための計画書（ケアプラン）が必要となります。本人や家族の希望に沿い、このケアプランを作成するのがケアマネジャーです。

Q.例えばどんなサービスがあるの？

A.大きく分けると在宅で利用できるサービスと施設に入所するサービスの二つに分かれます。在宅で利用できるサービスとしては、ヘルパーなどの訪問系、デイサービスなどの通所系、短期入所（ショートステイ）の他、住環境を整えるサービスとして、福祉用具の貸与、福祉用具購入費や住宅改修費支給のサービスもあります。



以上、簡単にお話させていただきましたが、もっと詳しい話が聞きたいという方には、前述しました地域包括支援センターにまずご相談されることをお勧めします。介護保険制度は医療保険制度、年金制度と並ぶ社会保険制度です。将来、介護が必要となったら…の場合に備え、ちょっとした知識があると安心ですね。



新潟市民病院
広報広聴委員会
新潟市中央区鐘木463-7
電話 025 (281) 5151 (すばやい受診こいこい)
Fax 025 (281) 5187
予約センター 025 (281) 6600 (すばやい予約ろくろくぜろぜろ)

編集後記

インフルエンザの予防接種は受けられましたか？
今年もあと少しですね。この冬は大雪という予想ですが、
防寒対策をしっかりとって、新しい年を迎えましょう。

(Y.F.)